

株で儲けるための条件

A 自制心がある

B 合理的な考えができる

C 自分の頭で考えられる

「そんな簡単なことで儲けることができるの？」と貴方が考えたとしたら・・・
貴方は大変な心得違いをしている（貴方ばかりでなく大抵の人はこの点で心得違いをしているようです）
この三つの資質を持って直近5年間株式投資をしていたなら、よほど運のない人でも一財産ていどは築いているはずです。
上記のどれをとっても普通の人間には極めて難しいことです。
当たり前で如何にも簡単に思えるが難しい、これが上記A～Cです。

自制心について（待つは仁なり）

意外に多くの投資家が株はいつやっても銘柄の選び方が正しければ儲かると思っています。確かにそうです。しかし、正しく銘柄を選ぶことはそんなに簡単なことではありません。（これは最近の学術的研究により立証されています）
株で本当に儲けられるチャンスは多くて年に数回、というのが私の持論です。誰でも年に数回よりも毎日儲けられた方がよいにきまっています。

時期が来て「赤子の手をひねるように」簡単にもうけられるまで待つ、その時まで市場を睨みながら待つことができるかどうかは勝敗の分かれ目です。

合理的な考え

いつの時代でも一握りの幸運な人というのはいるものです。株式相場は本質的に上がるか下がるかのどちらかです。世界の投資人口がどのくらいか知りませんが、その中の極々少数の投資家が宝くじに当たるように連戦連勝して巨額の富を蓄積することは確率的には十分考えられるし、そのようなラッキーな人は間違いなく存在します。
高名な投資家のうちの何人かは、そのような偶然による成功者に過ぎないと思われま。大衆投資家はそのような成功者の真似をすれば儲けられると錯覚し、結果として市場からの退場を余儀なくされているのが現実です。

それよりも理詰めで株価を追い詰めていき、このような状況でこのような投資法を採用すれば損をする方がおかしい、少なくとも儲かる確率が圧倒的に高いと考えられる時期にのみ投資すれば誰でもが嫌でも平均以上の利益を上げられるはず。私たちは日夜そのことのみを研究し、具体的なノウハウを公にするよう心がけています。

自分の頭で考える

株式投資を3ヶ月とか半年とかの短いスパンに限ってみた場合、どちらかという損をしている人の方が多いようです。これは時折、証券会社が発表する信用取引の評価損益をみれば明らかです。

目先的に投資家の儲からない一番の原因は彼等の横並び思考にあると私は考えます。投資家は往々にして集団で間違ふ傾向があります。その証拠は2、3ヶ月前までの専門家の日経平均高値予想が7月迄に18000円ということで不思議なほど一致していたことを想記していただければ十分です。

一頃「赤信号みんなで渡れば怖くない」というギャグが流行りましたが、株の場合一番怖いのはみんなで渡ることです。

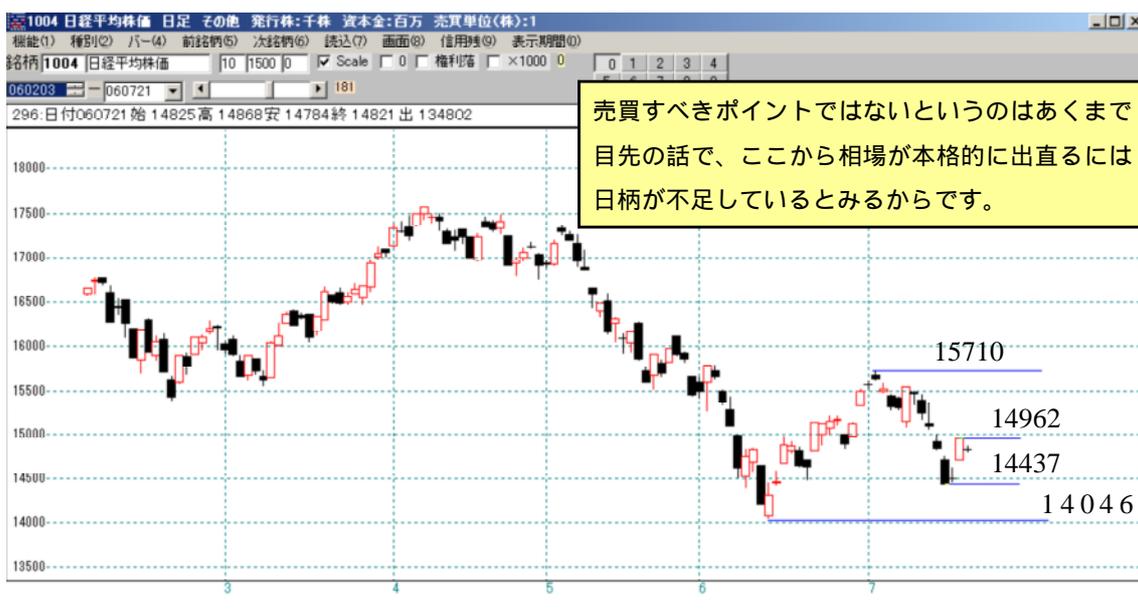
ともすれば一般の投資家は業界で高い地位にある人や株式ジャーナリズムに露出度の高い評論家の意見に従っていれば無難である、と思いがちです。

しかし、その人たちが推奨した銘柄のその後の動きを追跡してみれば分かりますが、この手の権威追従型の投資を繰り返している限り株式投資での成功はおぼつかないことが分かるはずで

大切なことは過去のデータに基づき仮説を立て、確率を検証するという科学的手法を用いて自分の頭で相場を考えることです。そして、過去の成功確率が高かったパターンが出現したら、その時と現在のファンダメンタルズおよび受給関係のどこが異なるかを分析した上で自分なりの戦略を立て行動することです。

現時点でどう行動すべきか

結論から申し上げますと現時点は新規に売買すべきポイントではないと考えます。



現在の相場がもたついているのは単純化すると、金利の問題（特に米国の）と中近東を中心とする地政学的リスクです。しかし、この悪材料は時間の経過によりかなりの程度株価に織り込まれているはずで、（材料としての意外性がない）

ただ、ここから相場がさらに一段高して16000円を超えるには現時点では想定していないような意外性のある材料が出現するか上値で買い付いたシコリが解消する必要があります。

従って目先の相場は高値15700円、下値14000円の範囲内での小幅な上下変動を繰り返す、その変動が煮詰まったところで上下どちらかに離れる確率が大とみるのが妥当です。

平均株価が大きく動かない限り個別銘柄で儲けるのは至難の業です。

難しいとき、「勝ち難き」相場には手を出さないのが肝要です。

相場が大きく動かない確率が高いと判断した時はどうするか

このような時は225オプシオンのショート（売り）の作戦が有効です。

8月11日の225平均株価寄付（SQ といいます）が16000円以下14000円以上であれば儲かるように225オプシオンのポジションを作ればよいわけです。

つまり

- 1) 公使価格16000円のコール（16000円で日経平均を買う権利）本日プレミアム（株価に相当）30円を5枚売る。
- 2) 公使価格14000円のプット（14000円で日経平均を空売りする権利）本日プレミアム3枚売る。

こうしておくとして8月の第2に金曜日の225平均の寄付が14000円以上、16000円以下であれば下記のような利益が得られます。

8月の第2金曜日の寄付きが14000円から16000円の間には収まれば14000プットも16000円コールも無価値、つまりゼロになります。

$$30円(16000コールのプレミアム) \times 5枚 \times 1000 = 15(万円)$$

$$50円(14000プットのプレミアム) \times 3枚 \times 1000 = 15(万円)$$

$$\text{計} \quad 30(万円)$$

上記のポジションを組むのに必要な保証金は¥1,140,690-です。利回りは14日で26%強

もし月26%の利率で120万円を12ヶ月運用できたとすると1年後の元利合計は¥19,214,442-となります。

さらにオプシオンのよいところは万一、期待が外れて相場が想定範囲に収まらなかった場合でも様々な対応策があることです。

この点についてはこれから折にふれて解説していく予定です。

私がここで申し上げたいのはオプション取引はデイトレードなどよりはるかに合理的で有利な投資であるということです。